

千葉県観音塚遺跡（第3次）

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2020

株式会社 フレスコ
公益財団法人 千葉県教育振興財団

千葉県観音塚遺跡（第3次）

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2020

株式会社 フレスコ
公益財団法人 千葉県教育振興財団

例言

- 1 本書は、千葉市中央区千葉寺町709-1の一部に所在する観音塚遺跡の宅地造成に伴う発掘調査報告書である。
 - 2 発掘調査および整理作業は、株式会社フレスコの委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
 - 3 発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
- ・確認調査
- 期間：2019（令和元）年10月21日～2019（令和元）年11月1日 面積：153.5 m²/1354.91 m² 担当者：山下亮介・井出祥子（千葉市埋蔵文化財調査センター）
- ・本調査
- 期間：2020（令和2）年4月21日～2020（令和2）年4月27日 面積：30.0 m² 担当者：小林篤（公益財団法人千葉市教育振興財団）
- 4 整理および本書の製作・編集は、吉村瑠子・新田浩美・田中葉月・北田典子の協力を得て、小林が担当して行った。
 - 5 整理期間は、2020（令和2年）年5月7日～2020（令和2年）年12月18日にかけて、断続的に行った。
 - 6 遺構・遺物の撮影は小林が行った。
 - 7 本書の執筆は小林が行った。
 - 8 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
 - 9 発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
- 千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・株式会社フレスコ

凡例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
 - 2 土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版 標準土色帖」による。
 - 3 本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
- 遺構実測図：1/60
遺物実測図：土器 1/4・1/3 土製品 1/3
- 4 遺構・遺物の図面はAdobe Systems社製Adobe Illustratorで編集作業を行った。
 - 5 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems社製Adobe Photoshopで編集作業を行った。
 - 6 本文中の遺構の略称は以下のとおりである。
- 竪穴建物跡：SI 溝：SD

目次

例言・凡例

目次

第1章 観音塚遺跡の概要	1
1 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
2 過去の調査歴	1
3 調査の方法	3
第2章 検出した遺構と遺物	3
1 古墳時代	3
2 奈良時代	3
3 中世	3
第3章 まとめ	5
写真図版	
抄録	

表目次

第1表 出土遺物観察表	6
-------------	---

挿図目次

第1図 観音塚遺跡の調査経緯	2
第2図 遺構配置図	2
第3図 第1号竪穴建物跡・第1号溝状遺構・古代遺構外・確認調査	4

写真図版目次

図版1 調査前現況（南から）、第1号竪穴建物跡全景（北西から）、第1号溝状遺構全景（北西から）、調査終了（南から）、第1号竪穴建物跡・第1号溝状遺構全景（北西から）	
--	--

第1章 観音塚遺跡の概要

1 遺跡の立地と周辺の遺跡

観音塚遺跡は、都川沖積地の南側に広がる台地上、標高約15～24mを測る台地上に立地している。本遺跡を含む遺跡群は千葉寺地区遺跡群と呼ばれ、周辺にも多くの遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡としては本遺跡の北東に荒久遺跡があり、まとまった石器群が検出され、千葉寺地区遺跡群でも鷺谷津遺跡などで調査例がある。縄文時代の遺跡の密度は薄く、地藏山遺跡や中野台遺跡で早期の炉穴群が検出されている。弥生時代の遺跡としては、鷺谷津遺跡で類例の多くない中期中葉の集落が検出され、中野台遺跡では中期後葉～後期の集落・墓域が調査されている。古墳時代の遺跡は多く、荒久遺跡や中野台遺跡、鷺谷津遺跡、地藏山遺跡などで、各遺跡で消長に差はあるが前期～後期までの集落が検出され、猪鼻城跡では後期の古墳群、荒久遺跡の南には荒久古墳（方墳）がある。奈良・平安時代の遺跡も多く、本遺跡や鷺谷津遺跡でも大規模な集落跡が調査された。対岸の大北遺跡や山ノ神遺跡でも多くの遺構が検出され、大北遺跡では掘立柱建物群や多量の畿内産土師器・緑軸陶器などが出土し、公的施設が存在した可能性もある。また、本遺跡の北西には千葉寺が建立されている。中近世の遺跡としては、中野台遺跡で台地整形区画などが検出された。

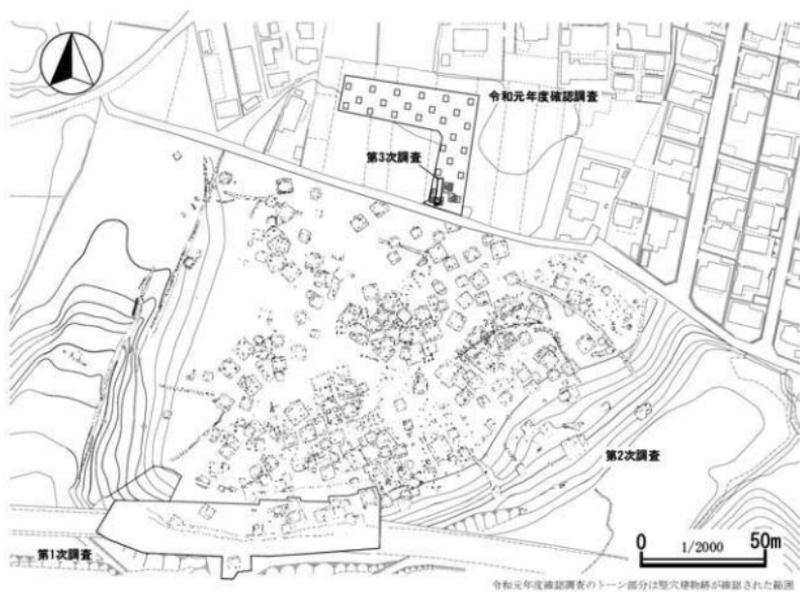
2 過去の調査歴（第1図）

観音塚遺跡の発掘調査は、昭和53・54年度に千葉急行線建設に伴う調査が行われ、昭和61～63・平成3・7・9・10年度にかけて断続的に都市基盤整備公団による土地区画整理事業に伴う調査が行われた。

観音塚遺跡は旧石器時代から土地利用の痕跡が確認されており、石器ブロックが調査された。縄文時代の遺構密度は薄く、遺構が確認されたのは早期条痕文系の炉穴群などに限られるが、土器は早期の燃糸文系～後期初頭の称名寺式まで僅かではあるが出土している。弥生時代～古墳時代中期までの遺構は本遺跡では検出されていないが、古墳時代後期後半以降に遺構の検出数が飛躍的に増加する。古墳時代後期後半～終末の竪穴建物跡は57軒検出され、続く奈良時代には最も集落が大規模化し、103軒検出された。平安時代にはやや規模を縮小させ、45軒検出されている。観音塚遺跡は古墳時代後期後半以降に急速に開発が進んだ集落であるが、このような集落は奈良時代に最も遺構数が増える事例が千葉県内でも多い。本遺跡も和同開珎や帯金具、硯、畿内系の土器など、役人・役所に関連する遺物が目立つ。また、「子驛口」と墨書された土器が出土し、付近に駅家があった可能性も指摘されている。このようなことから、本遺跡は古代東海道の街道筋に位置する物流の中継点近くに位置した都市型の集落と考えられている。

平安時代になり、10世紀前半以降は急速に縮小する。これは駅路の変更が影響したものと考えられている。その後は僅かに中世の可能性のある溝跡などが検出されるに留まり、集落は台地上には見られなくなるようである。

なお、昭和53・54年度調査を第1次調査、昭和61～63・平成3・7・9・10年度の調査を第2次調査、本報告の令和2年度調査を第3次調査と呼称する。遺構番号は第1・2次調査からの通し番号とはしていない。



第1図 観音塚遺跡の調査歴



0 1m 2.5m

第2図 遺構配置図

3 調査の方法（第2図）

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。グリッドは5m単位とし、南北方向は算用数字で、東西方向はアルファベットの大文字で表記した。

第2章 検出した遺構と遺物

1 古墳時代

(1) 概要

遺構は検出されなかったが、他時期の遺構から遺物が僅かに出土している。

(2) 遺構外出土遺物

遺構に伴うものではないが、第1号溝状遺構から古墳時代後期の土師器坏が1点出土している。

2 奈良時代（第1表・第3図）

(1) 概要

奈良時代の竪穴建物跡が1軒検出された。確認調査で出土した遺物（第3図6～8）は第1号竪穴建物跡の近辺から出土し、伴う可能性が高い。

(2) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第1表、第3図）

重複関係：第1号溝状遺構と重複し本遺構が古い。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸<1.0>m、短軸<0.9>m、深さ0.57m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。ハードローンを床面としている。壁溝が検出され、幅0.30m、深さ0.05mを測る。覆土：覆土は部分的にロームブロックを多量に含んでおり、人為的な埋戻しと考えられる。遺物：遺物の出土はごく僅かであり、覆土中から土師器・須恵器の細片が出土しているのみである。内訳は土師器坏4点、甕・甎17点、須恵器坏2点、焼成粘土塊1点である。時期：土師器坏の形態から奈良時代前半と考えられる。

(3) 遺構外出土遺物（第1表・第3図）

遺構に伴うものではないが、調査区内及び他時期の遺構から遺物が僅かに出土している。内訳は第1号溝状遺構から土師器坏6点、須恵器壺・瓶類1点、瓦1点、第1号溝状遺構・調査区から土師器甕・甎43点である。

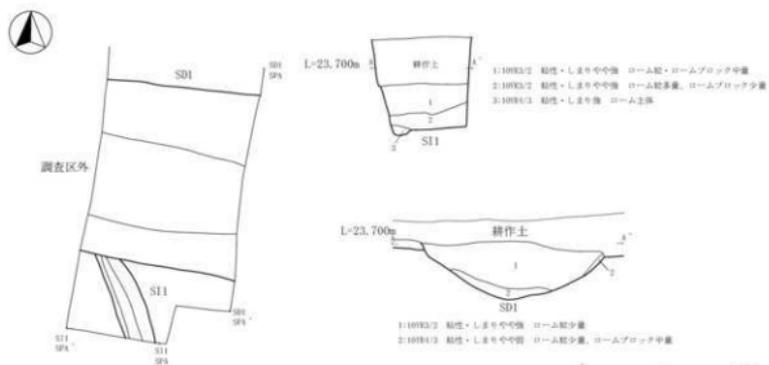
3 中世（第3図）

中世と考えられる溝跡が1条検出された。

(1) 溝状遺構

第1号溝状遺構（第3図）

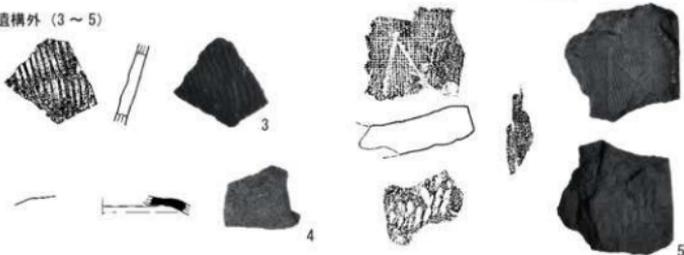
重複関係：第1号竪穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。平面形態：検出された範囲では直線状を



SI1 (1-2)



古代遺構外 (3~5)



確認調査 (6~8)



0 1/3 5cm 0 1/3 5cm

第3図 第1号竪穴建物跡・第1号溝状遺構・古代遺構外・確認調査

呈す。規模：幅 2.2m、深さ 0.71m。構造：底面はやや傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から僅かではあるが、土師器・須恵器・瓦が出土し、細片で占められている。内訳は古墳時代後期の土師器坏 1 点、奈良時代の土師器坏 5 点、甕・瓶 34 点、焼成粘土塊 1 点である。時期：遺物の出土が僅かで決め手に欠けるが、覆土に締りがあり、近世の溝状遺構とは考えにくい。過去の調査でも溝状遺構が検出され、中世以降の遺物が出土していることから、中世と考えておきたい。

第 3 章 まとめ

今回の調査では、奈良時代の竪穴建物跡 1 軒、中世の可能性が高い溝状遺構が 1 条検出され、古墳時代後期の土器が僅かに確認された。過去の調査でも当遺跡は古墳時代後期後半以降に飛躍的に遺構数が増加し、奈良時代にピークを迎えることが指摘されてきたが、今回の調査成果も過去の調査成果と整合的と考えられる。確認調査の成果も合わせれば、本調査範囲の北側からは竪穴建物跡などの遺構は検出されておらず、本調査範囲が集落域の北限となり、集落の範囲が大大かではあるが明らかになった。

参考文献

- 相邦邦彦編 1984『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』千葉急行電鉄株式会社・財団法人千葉県文化財センター
- 池田大助・小林清隆・麻生正信・萩原恭一・田井知二 1986『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』千葉急行電鉄株式会社・財団法人千葉県文化財センター
- 加藤大輝ほか 2011『千葉市中央区 猪鼻城跡 千葉大学医薬系総合研究棟建設に伴う発掘調査報告書』千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会・千葉大学文学部考古学研究室
- 白井久美子 2006『千葉市中野台遺跡・荒久遺跡（4）—独立行政法人都市再生機構千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ—』『千葉県教育振興財団調査報告』第 527 集）独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財団
- 白井久美子・倉内郁子・島立柱・西野雅人・四柳隆・田中裕 2002『千葉市鷺谷津遺跡—都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—』『千葉県文化財センター調査報告』第 422 集）都市基盤整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 白井久美子・島立柱・西野雅人・四柳隆 2004『千葉市観音塚遺跡・地藏山遺跡（3）—都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ—』『千葉県文化財センター調査報告』第 472 集）都市基盤整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 田中裕 2002『2. 土器編年』『千葉市鷺谷津遺跡—都市整備基盤公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—』『千葉県文化財センター調査報告書』第 422 集）都市整備基盤公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 田村隆・今泉潔・上守秀明・山口典子 1989『千葉市荒久遺跡（1）—千葉県立中央博物館野外観察地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告』第 153 集）千葉県教育委員会・財団法人千葉県文化財センター

第1表 出土遺物観察表

第1号墓穴建物跡

1	土師器 坏	(15.0) - <2.6>	口縁部片。内面ミガキ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	白色粒・石英・礫少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
2	土師器 坏	- - <3.8>	体部片。内面ヘラミガキ。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。	海綿骨針微量、白色粒・石英少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好

古代遺構外

1	土師器 壺	- - <5.1>	胴部片。内面割部。外面平行タタキ。SD1出土。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR5/2	良好
2	須恵器 壺・瓶類	- - <1.5>	体部片。内外面ロクロナデ。外面自然軸付着。SD1出土。	白色粒微量。	外面：5Y6/2 内面：2.5Y6/2	良好
3	土製品 瓦	- - <6.3cm>、 厚さ2.0cm、 重量106.5g、 上面布目痕、 側面付定はナデ、 下面隅叩き、 側面付定はナデ、 側面ナデ、 SD1出土。		白色粒・石英 微量。	上面：7.5YR5/4 下面：10YR5/3	良好

確認調査

1	土師器 坏	(8.6) (2.7) <2.7>	底部片。内外面ヘラミガキ。底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。	海綿骨針微量、白色粒・石英少量。	外面：5YR4/8 内面：5YR4/8	良好
2	土師器 坏	(5.0) <1.6>	底部片。内面ナデ。外面及び底部平持ちヘラケズリ。	白色粒・石英中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/6	良好
3	須恵器 壺	- - <6.9>	胴部片。内面青海波及びナデ。外面平行タタキ。外面自然軸付着。内面輪積痕が残る。	白色粒微量。	外面：5Y4/1 内面：5Y5/1	良好



調査前現況（南から）



第1号竪穴建物跡全景（北西から）



第1号溝状遺構全景（北西から）



調査終了（南から）



第1号竪穴建物跡・第1号溝状遺構全景（北西から）

報告書抄録

ふりがな	ちばしかんのんづかいせき						
書名	千葉市観音塚遺跡						
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	小林 嵩						
編集機関	公益財団法人 千葉市教育振興財団 事務局 埋蔵文化財調査担当						
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター内 TEL: 043-266-5433						
発行年月日	2020年12月25日						
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
<small>（ちばのんづかいせき）</small> 観音塚遺跡	<small>（ちばのんづかいせき）</small> 中央区千葉寺町 109-10-11	121011	中央区 55	北緯 35° 35′ 26″ 東経 140° 08′ 25″	20200421 ~ 20200427	30.0 m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
観音塚遺跡	集落	奈良時代	竪穴建物跡 1軒		土器・土製品		
	集落	中世	溝状遺構 1条				
要 約	<p>1 古墳時代 遺構は検出されなかったが、古墳時代後期の土師器が僅かに出土している。</p> <p>2 奈良時代 奈良時代前半の竪穴建物跡が1軒検出された。本調査範囲より北側では、竪穴建物跡などの遺構は検出されていないことから、集落の範囲が明らかになった。</p> <p>3 中世 中世の可能性が高い溝状遺構が1条検出された。</p>						

千葉市観音塚遺跡
—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—
令和2年12月25日発行

編集・発行 株式会社 フレスコ
公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局 埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
埋蔵文化財調査センター内
TEL : 043-266-5433

印刷 株式会社 正文社
〒260-0001
千葉市中央区都町1-10-6
TEL : 043-233-2235

